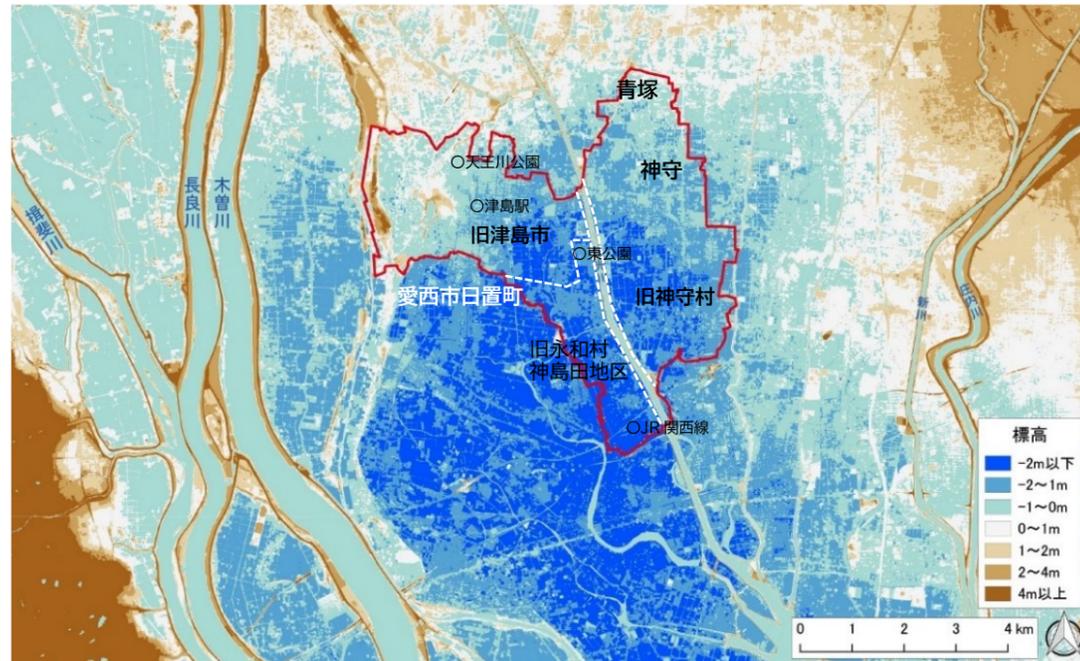


1. 津島市の特性

(1) 地勢・地形的特性

地質は木曾川、長良川、揖斐川の三川によって堆積された沖積層からなる濃尾平野と呼ばれる平地で、地形においては市域の西側は川からあふれ出た水に含まれていた土砂が川岸に積み重なってできた自然堤防とその背後にできる後背湿地帯と呼ばれる湿地帯が中心であるのに対して、東側は三角州が広がるなかに自然堤防が点在しています。標高は市域のほとんどが起伏の少ない海拔ゼロメートル以下の低地となっており、津島神社周辺が最も高い土地となっています。



資料: 基盤地図情報(国土地理院)

図1 津島市周辺の標高

(2) 自治体としてのあゆみ

明治4年(1871)に廃藩置県を経て津島村が置かれ、明治22年(1889)には周辺地域とあわせて津島町となりました。昭和22年(1947)に津島市となり、昭和30年(1955)に神守村(神守地区)、昭和31年(1956)に神島田地区を編入し、現在の市域となっています。

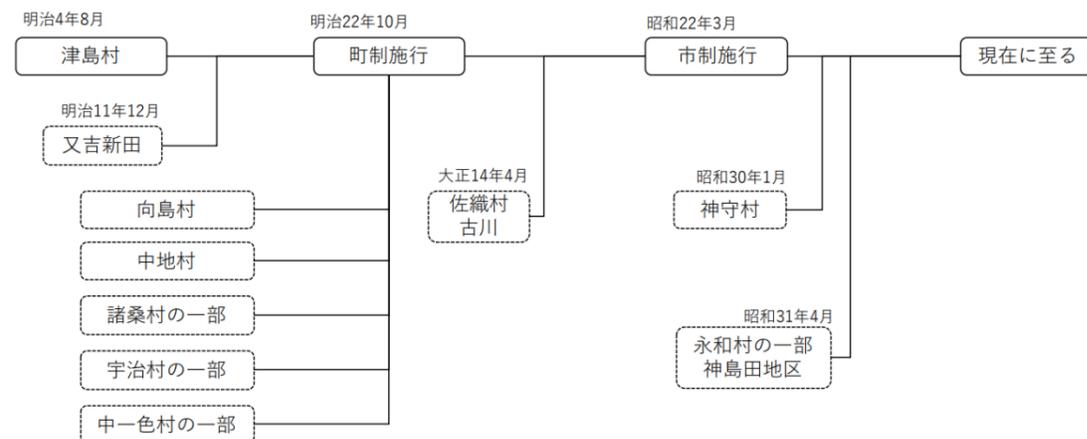


図2 津島市の変遷

2. 津島市の景観要素の整理

(1) 景観構成要素

「景観」は、地域の歴史、地勢や生態系等の風土、文化や伝統、人々の暮らしや経済活動、法規制、政策によって形成されるものであり、景観構成要素を分類し、整理する必要があります。

景観を形成する要素は、距離的に大きく3つに分類(点、線、面)で区分し、性質を自然系、歴史・文化系、生活・産業系、眺望系に分類して整理することとします。(図3、表1)



図3 景観要素のイメージ

表1 一般的な景観要素の区分

	点	線	面
自然系	池、島、巨石、滝 高木、古木、天然記念物	河川、海岸線	平地、山並み、大きな湖沼、海、広い樹林地
歴史・文化系	社寺、歴史的建造物、古い建築物、古い井戸、工作物、遺跡、史跡、船着き場(跡)	歴史的町並み(街道筋)、街道、運河、	歴史的町並み(城下町等)、50年を経過した市街地開発事業済地区
生活・産業系	公共建築物、駅、バスターミナル、飛行場、橋梁、公園 古い工場(醸造所、のこぎり屋根等)、養魚場、特徴のある建築物	幹線道路、商店街、鉄道、高圧線(鉄塔)	一団の農地、一団の住宅地 工業・物流団地、駅周辺の商業集積地、ロードサイド型ショッピングモール、
眺望	点・線・面が重なった一体的な景色		

(2) 主な点的景観要素

- かつては湊としての賑わいがあり、かつ、津島神社の門前町として、広域に集客力をもつ地区であることから、多くの歴史的な景観要素が分布
- 歴史のある醸造所、戦後、毛織業により繁栄し、その名残としての古い工場、和菓子の製造・販売を行っている店舗などが景観要素として分布
- 天然記念物の樹木(イチヨウやフジ)、カジノキの群落地等、自然系の景観要素も現存
- 津島神社境内には、南門、楼門、本殿前等、ランドマークが多く存在
- かつての湊跡、河道を伝える天王川公園については、自然・歴史系の景観要素

(3) 主な線的景観要素

- ① 日光川、新堀川の橋梁部からの眺望
- ② 本町筋、天王通り及び津島街道
- ③ (都)西尾張中央道、(都)名古屋津島線、(都)昭和南本町線等の都市計画道路
- ④ 名鉄津島線、同尾西線
- ⑤ 尾張津島秋まつりにおける山車・神楽のルート

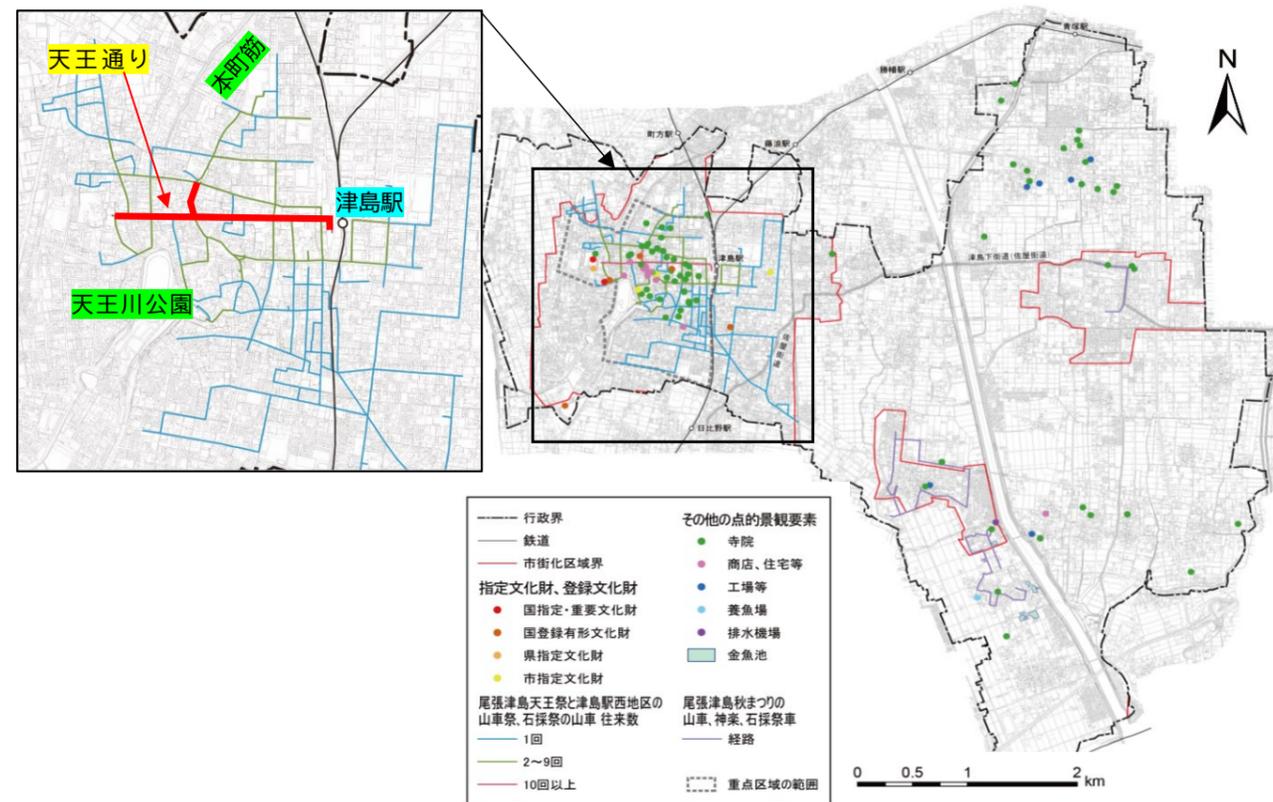


図4 歴史系景観要素及び山車・神楽ルートの分布

(4) 主な面的景観要素

- ① 鈴鹿山系の稜線(市外)
- ② 一団の優良農地(農用地区域)
- ③ 天王川公園での丸池や周辺樹木の眺望
- ④ 名鉄津島駅西側の市街地、市街化調整区域に点在する集落地



図5 面的景観要素

3. 良好な景観形成に取り組むべき事項

点的・線的景観要素の分布状況から、名鉄津島駅西側の旧市街地地区に集中していることがわかりました。そこで、良好な景観形成とともに取り組むべき事項を以下に示します。

(1) 空き家対策

旧市街地地区は、当市の地場産業であった毛織産業が活況であった頃、多くの人が行き交うマチナカでありましたが、現在では空き家率が約25%と市内でも割合が高い地域となっています。この地区には、江戸から息づく営みを映し出す町家住宅や神社仏閣等の点的な景観要素が多く分布しており、空き家対策も含め景観の保全を行う必要があります。

(2) 景観形成に関する意識向上

旧市街地地区では、地域資源を活用した津島らしいまちづくりの実践に向けて、過去には様々な計画を策定してきましたが、市の厳しい財政的事情により実現には至りませんでした。

この反省を基に、平成29、30年には、昭和14年に都市計画決定した以降、長期未着手路線である天王通り線の在り方について議論するタウンミーティング等を開催したほか、国の地方創生事業等を活用して市では歴史的風致が息づく「小路(こみち)」を景観に配慮した道路整備を行ったのち、市民により構成されるガイドボランティア等の方々により、マチナカに息づく歴史を紹介する「まち歩きツアー」等の、様々な取り組みを市民と協同で実施してきました。

現在では、新たな催事として「津島てら・まち御縁結び」も生まれ、マチナカにある神社仏閣の協力のもと、個性的な御朱印が貰えるだけでなく、市指定文化財の特別公開も行われるほか、市内や市外を含む、さまざまな方々との交流イベントがマチナカに生まれ発展してきています。

こうした活動を継続した結果、市民とともに景観行政へ取り組める状況が芽生え、令和5年度に実施したアンケート調査の結果からも、当該地域に対する景観への関心が高いことが分かったほか、市民の意識を高めるために、ワークショップ等を始めとする多段的な取組を進めていく必要があると考えます。

4. 景観構成要素の整理

自然	本市内の中心を流れる日光川は、最も大きな自然景観であります。また、津島神社、各地域に点在する神社仏閣には社寺林があり、古くから歴史とともに存在する景観要素であります。その他にも天王川公園の藤や桜等は、季節によって変化する景観で、市内外問わず多くの人々が楽しめるものとなります。
歴史文化	名鉄津島駅西側の地域では神社仏閣が多く分布し、本町筋を中心に旧津島街道沿いには、蔵や町家等も残っており、これらの建築物は古い町並みを構成する景観要素となっています。しかしながら、空き家、空き店舗も多く、古い建築物の維持管理も難しいといった課題があります。また、神守や神島田地区等にも街道筋や集落地の社寺等の歴史系要素が分布しています。各地域には祭文化があり、尾張津島天王祭りでは巻藁舟、尾張津島秋まつりでは山車・神楽が練り歩く様子は受け継がれる文化的景観となります。
生活・産業	名鉄津島駅や公共施設、商店等の多くの生活的な景観要素が点在しており、工場や農地等の広がりのある産業的景観があります。これらを支える線路や都市計画道路も景観要素となり、中でも天王通りは名鉄津島駅と津島神社を結ぶシンボルロードで、今も昔も町並みを形成する重要なものとなります。近年では、空き店舗の増加等の課題が商店街の景観面からも課題となっています。
眺望	本市は、海拔ゼロメートル地域で平坦な地形となっており、堤防、橋上、電車等から市街地や河川、一団の農地等の広がりのある景観を眺望することができます。また、天王川公園内では御旅所からの丸池、屋外ステージ付近からの北方向の眺望は、まちなかの良好な眺望景観となっています。このような広がりのある眺望に高い建築物が無造作に建築される課題も懸念されております。